

黒耀石研究センター活動報告2025

2025年度 黒曜石研究センター活動報告

I. 研究活動

一昨年度（2024年度）4月、長野県長和町に所在していた黒曜石研究センターの機能の多くを、駿河台キャンパス猿楽町校舎に集約した。これに伴いかつての猿楽町分室は、「猿楽町本部」、長和町の「黒曜石研究センター」は「長和分室」と改称することになった。

この改変の目的の一つは、黒曜石研究センターの活動と学部・大学院の考古学専攻との連携を深めることにあるが、さらに研究成果を講演やセミナーなどを通じて普及する機会を増やすことも意図されている。

なお、文章中の「COLS」は黒曜石研究センター（Center for Obsidian and Lithic Studies）の略号である。

（1）黒曜石考古学部門

黒曜石原産地推定が提供するものは、石器が最終的に廃棄された場所と黒曜石原産地を地理的に結ぶ情報である。それを考古学的なコンテクストに取り込み、交換・流通や集団の移動といった先史考古学的課題の追究を試みるのが「黒曜石考古学」という学問領域である。

また近年では、機器の進化や分析結果の数理的な処理方法の改良に伴い、原産地推定法自体がより洗練されたものになりつつある。

明治大学黒曜石研究センターでは、据え置き型蛍光X線分析装置（EDXRF）である日本電子社製JSXが長和分室で、可搬型蛍光X線分析装置（p-XRF）であるDELTAが猿楽町本部で稼働している。

①黒曜石原産地推定

【他機関からの依頼による分析】

旧石器時代細石器段階の北海道白滝産黒曜石の南下を検証するために、福島県会津若松市笹山原遺跡・群馬県前橋市鳥取福蔵寺遺跡出土の黒曜石を分析した（DELTA および JSX、新潟大・青木要祐氏の依頼）。

後期旧石器時代初期の北海道産黒曜石の分布を検証するために、山形県村山市清水西遺跡出土黒曜石を分析した（DELTA、東北大・金彦中氏の依頼）。

富士宮市史考古編さん事業に伴い、同市内の小塚遺跡出土黒曜石（旧石器時代後半）を分析した（DELTA）。

千葉県教育委員会が実施している新田野貝塚再整理事業に伴い、同遺跡出土黒曜石（縄文時代前期～中期）を分析した（DELTA）。

【センター員の研究目的および共同研究による分析】

センター員自身の研究目的、および共同研究にもとづく分析例は、以下のとおりである。

・千葉県大膳野南遺跡（DELTA、縄文時代後期）、東関東における信州系黒曜石の流通拡大の過程を明らかにする目的で実施した。

・成田市東三里塚吉野台（空港No.52）遺跡（JSX、旧石器時代）

・成田市船尾白幡遺跡（JSX、旧石器時代）

・成田市地国穴台遺跡（JSX、旧石器時代）

・大網白里市升形遺跡（JSX、旧石器時代）

成田市の3遺跡はいずれも細石刃段階であり、その東関東での黒曜石の獲得と利用を明らかにしようとする試みである。

・佐久市寺畑遺跡（JSX、縄文時代草創期）、すでに発掘調査報告書が刊行されている寺畑遺跡から出土した黒曜石を分析、神津島産黒曜石1点が含まれていた。

・北海道湧別町シュブノツナイ遺跡（JSX、続縄文期）

・北海道八雲町オクツナイ遺跡（JSX、続縄文期）

・北海道江別市旧豊平河畔遺跡ほか（JSX、続縄文期）

続縄文期3遺跡の分析は、札幌学院大学・大塚宜明氏との共同研究であり、続縄文期に見られる特徴的な黒曜石流通の解明を目指している。

②黒曜石原産地推定法の普及活動

千葉県教育振興財団文化財センターでは、今年度、可

搬型蛍光X線分析装置（p-XRF）を購入し、黒曜石の原産地推定を実施する体制を整備する予定である。しかし振興財団には文化財化学を専門とする職員がいないため、池谷副センター長が、機器の測定条件の設定やデータ処理法などについて指導を行った。来年度は原石の測定、原産地推定のための判別図の作成などを行う予定である。

神奈川県埋蔵文化財センターでも2026年2月に据え置き型蛍光X線分析装置（EDXRF）を購入した。2月16日・17日に行われたメーカー技術者による基本的操作法のレクチャーに池谷も立ち会い、機器の設定や判別図の作成などのスケジュールについて協議を行った。

（池谷信之）

②黒曜石以外の石材の原産地推定

1) サヌカイト・安山岩

帯磁率が原産地ごとに異なる性格を利用して、帝釈峡、西ガガラ遺跡（広島）、六通神社南遺跡（千葉）、多久三年山、茶園原遺跡（佐賀）などの石器について、帯磁率と重量をパラメーターにして、原産地推定を試みた。安山岩については、ある程度、原産地を推定できる資料が集まった。また、全国のサヌカイト・無斑晶質安山岩の原岩サンプルの記載・リスト化を行った。

（調査日程、場所）

5月26日～29日 広島県帝釈峡展示施設 広島大学 帝釈峡馬渡岩陰、西ガガラ遺跡などのサヌカイト・安山岩製石器の石材鑑定、原産地推定。

7月7日～9日 千葉県教育庁大多喜分室 六通神社南遺跡のサヌカイト製石器の石材鑑定、原産地推定。

10月13日～17日 千葉県教育庁大多喜分室 六通神社南遺跡のサヌカイト製石器の石材鑑定、原産地推定。

9月16日～18日 富士宮市埋蔵文化財センター 大鹿窪遺跡の安山岩製石器の石材鑑定、原産地推定。

12月4日～6日 明治大学 多久三年山、茶園原遺跡の安山岩製石器の石材鑑定、原産地推定。

2) 珪質頁岩

頁岩系の石材には、珪質頁岩、玉髓質珪質頁岩、凝灰質頁岩、頁岩（古期）などがみられる。頁岩は実体顕微

鏡による石質の観察が主で、色調、火山灰の混入の有無、珪化の状況、微化石の保存状況などによって、地域ごとの特徴が把握できることから、原産地地域の推定が可能である。小瀬ヶ沢洞窟、角田台遺跡・六通神社南遺跡（千葉）では新潟系の珪質頁岩が確認された。

5月19日～21日 愛知学院大学 日向洞窟の珪質頁岩製石器の石材鑑定、原産地推定。

6月10日～12日 秋田県湯沢市教育委員会 長蓮寺遺跡の石器の石材鑑定、原産地推定。

10月28日～29日 新潟県立歴史博物館 小瀬ヶ沢洞窟の石器の石材鑑定、原産地推定。

3) 玉類

玉類には、透閃石岩、滑石、碧玉、三波川帯変成鈹物などがあり、主に実体顕微鏡観察と比重・帯磁率測定で石材鑑定する。ラフキ遺跡の透閃石岩は、実体顕微鏡観察で福井県桑野遺跡の玦状耳飾の石材と同様なもので、渡来品であることが判明した（報告書制作中）。加茂宮ノ前遺跡の三波川帯変成鈹物、南大原遺跡の碧玉は、いずれも在地石材を使用していることが判明した。

8月19日～21日 秋田県埋文センター ラフキ遺跡の縄文玉類の石材鑑定。

1月25日～27日 徳島県埋文センター 加茂宮ノ前遺跡の弥生白玉の石材鑑定。

2月9日 長野県埋文センター 南大原遺跡の弥生玉類の石材鑑定。

4) 砂岩

縄文時代草創期の砥石には、特異な砂岩が用いられている。主に実体顕微鏡観察により、砂岩中の砂の組成から原岩の堆積場所が推定できた。大鹿窪遺跡（静岡）、栃原岩陰、仲町遺跡（長野）の砥石を鑑定した。

1月7日 北相木考古博物館 栃原岩陰の砥石の石材鑑定、原産地推定。

2月22日 野尻湖ナウマンゾウ博物館 仲町遺跡の砥石の石材鑑定、原産地推定。

5) 石斧石材

3月4日～5日 京都府埋蔵文化財センター 稚児野遺

跡の旧石器時代石斧の石材鑑定，原産地推定

(中村由克)

(2) 先史考古学部門 (野外調査)

先史考古学部門では，以下の3つの柱をもとに，調査・研究を実施した。

①先史遺跡の発掘調査

まず，先史遺跡の発掘調査に関する研究テーマについて述べる。本年より，日本列島における現生人類の起源の追究をテーマとして掲げ，関連する以下の2遺跡の予備的な発掘調査を行った。

まず，堤 隆特任教授と大竹憲昭客員研究員は，長野県南佐久郡佐久穂町において，後期旧石器時代初頭の石器群の出土をみている池ノ平旧石器遺跡群の試掘調査を2025年9月に実施した。この遺跡は，蓼科エリア（八ヶ岳エリア）の黒耀石原産地内に立地し，黒耀石研究センターの研究においても欠かせない重要遺跡である。今回は，八千穂高原自然園の隣接地に数か所の試掘トレンチを入れたが，良好なローム層堆積が確認されたものの，石器は確認できなかった。2026年度も継続して発掘調査を実施する予定である。

続いて10月には，堤と大竹・諏訪問顧客員研究員は，長野県飯田市の竹佐中原遺跡の試掘調査を実施した。この遺跡は，長野県埋蔵文化財センターの発掘調査によって，大型で二次加工をもたない旧石器が出土しており，中期旧石器とも後期旧石器初頭とも位置付けられている。長野県埋蔵文化財センターの発掘調査地点の隣接地に2か所のグリッドを設定して調査したが，良好なローム層堆積が確認されたものの，石器は確認できなかった。2026年度も継続して発掘調査を実施する予定である。

12月には，堤が南佐久郡南牧村に協力し，長野県野辺山高原の矢出川第Ⅳ遺跡の試掘調査を実施したが，予想された細石刃石器群は検出されなかった。

7月前半において栗島義明客員研究員は，群馬県仙人窟の発掘調査を実施し，洞内に広く草創期（円孔文式）・前期（花積下層式）の文化層を確認し，洞窟深部から弥生時代中期の動物骨群を発見した。(堤 隆)

②島嶼部における先史時代遺跡の調査

列島島嶼部における人類の適応は2つめのテーマで，7月，堤は長崎県対馬島に渡航し，イタリアIRIAE (International Research Institute for Archaeology and Ethnology) 研究所代表 Daniele Petrella 博士とともに鬼ヶ崎縄文遺跡の調査を実施した。同遺跡では，早期の鍬形鏃などが検出され，その3D図化を行い，付近に包含されていた貝殻の放射性炭素年代測定を行った。調査成果は，年度末を待って概要報告の予定である。また同遺跡の発掘調査と合わせ，島内の先史時代の遺跡踏査を実施した。同島では，旧石器時代遺跡は未確認であり，日本列島への現生人類渡来の手がかりを得ることが重要で，今後も調査を続ける予定である。

同月，対馬島渡航前に長崎県壱岐島に渡り，数か所の黒耀石原産地調査を実施，黒耀石原石をサンプリングした。

2026年1月末から2月初旬にかけては，堤と諏訪問は，台湾に渡航し国立台湾史前文化博物館の曾于宣研究員に案内いただき，約3万年前以降の八仙洞旧石器洞窟の踏査と石器観察を実施した。八仙洞では海浜礫を利用した特有の礫器が出土しており，日本列島とは異なる道具立てを考究することができた。(堤 隆)

③災害考古学研究

火山は人類に，黒耀石というマグマの恵みをもたらしたが，一方で，災害を引き起こしている。現在，科研費研究「浅間山南麓における火山災害考古学序論」を実施中だが，その関連調査として，堤は日本大学安井真也教授（火山地質学）とともに浅間降下軽石に関する地層調査を12月に実施した。

昨年度とあわせ本年度も，文科省の助成金「即戦力となる火山人材育成プログラム」共同研究が採択され，「考古学と火山地質学とのマッチングによる浅間山活動史・社会災害史の復元と火山防災」（代表堤 隆）の採択が決まり，堤は8月に浅間山南麓にあたる佐久市枇杷坂遺跡群円正坊遺跡の弥生時代の竪穴住居をイタリアIRIAE Daniele Petrella 博士とともに発掘調査をして，浅間山前掛山活動期の地域社会様相解明のためのメスを入れた。

一方で堤は，浅間山の江戸時代噴火古絵図のデジタル

アーカイブにも取り組み、そのデジタル画像を保存して、古記録の文化財保護にも寄与した。(堤 隆)

(3) 植物考古部門

今年度は、科学研究費学術変革領域研究(A)の公募研究班研究代表者1件、基盤研究(S)の研究分担者1件、基盤研究(A)の研究代表者1件、研究分担者2件、基盤研究(B)の研究代表者1件、同分担者5件、基盤研究(C)の研究分担者1件、挑戦的研究(萌芽)の分担者2件が採択され、それぞれの研究に基づいて調査研究を実施した。

研究協力者を雇用して、新たに現生植物を採集し、採集済みの現生種実や繊維、鱗茎標本を整理収納・リスト化し、探索可能にした。植物遺体の分類、撮影作業を実施した。

- ①【調査】鹿児島県始良市において、縄文時代中期の前田遺跡出土の種実の同定を進めた。
- ②【調査】岩手県一戸町山井遺跡出土土藍胎漆器の製作技術の解明のため、町周辺でスズタケを採取、調整を行い、編組製品を製作して塗膜の塗布を試みた。
- ③【調査】土器種実圧痕および敷物圧痕の調査を多摩六都科学館、北本市教育委員会、福島県文化財センターまほろん、千葉県埋蔵文化財センター、国立歴史民俗博物館などの各地の出土資料所蔵機関で行った。
- ④【調査】ラオスで編組製品の使用と素材選択に係る民族考古学的調査をラオス国立大学と共同で実施した。
- ⑤【調査】東京藝術大学およびカンボジア・ベトナムで木彫像の樹種を調査した。
- ⑥【論文】リョウメンシダとワラビの縄の製作の結果を植生史研究に報告した。
- ⑦【論文】縄文土器原体のレプリカを採取し論文化した。
- ⑧【論文】カクレミノから採取する金漆の調査結果を取りまとめて植生史研究で報告した。
- ⑨【論文】国立民族学博物館共同研究の内容を投稿した。
- ⑩【論文】石川県白江梯川遺跡の出土木材の樹種選択を取りまとめて、木器研究会の特集号に投稿した。
- ⑪【論文】福島県墓料遺跡土器圧痕の成果を投稿した。
- ⑫【論文】古稀記念論集に論文を寄稿した。
- ⑬【学会発表】縄文時代晩期の京都府小樋尻遺跡出土木材の樹種同定結果を日本植生史学会で報告した。
- ⑭【学会発表】日本考古学協会、日本文化財科学会、日本植生史学会で研究内容を発表した。
- ⑮【学会発表・論文】4.2ka イベントについて総括してシンポジウムで話題提供するとともに、総説原稿を植生史研究に掲載した。
- ⑯【学会発表】金沢大フォーラムで北陸の木製品の樹種選択について発表した。
- ⑰【招待講演】福島県文化財センター、新潟県埋蔵文化財センター、東村山ふるさと歴史館、鹿児島県考古学会、浅間縄文ミュージアムなどで招待講演を行った。
- ⑱【シンポジウム】大崎市などで研究内容を講演した。
- ⑲【報告書作成】福島県前田遺跡の木材と種実、編組製品の同定結果をまとめ、報告書を作成した。
- ⑳【報告書作成】鹿児島大学構内遺跡出土の木製品類の研究成果を報告した。
- ㉑【報告書作成】佐賀県吉野ケ里遺跡と佐賀県セヶ瀬遺跡出土鉄剣付着繊維製品の同定を行い、成果を報告書原稿として取りまとめた。
- ㉒【報告書作成】ベトナム・ルイロウ遺跡から出土した漢代の木製品類の樹種を、原稿として取りまとめた。
- ㉓【報告書作成】群馬県小田沢遺跡の稲穂についてX線CT分析の報告書を科研費分担者と作成した。
- ㉔【報告書作成】石川県八日市遺跡出土木製品類と編組製品の同定結果を報告書原稿として取りまとめた。
- ㉕【報告書作成】高輪築堤の土木材の樹種同定を行い、工期と場所による樹種選択を提示した。
- ㉖【報告書作成】横手市内遺跡の土器圧痕調査報告書を作成した。
- ㉗【若手育成】早稲田大学、昭和女子大学、國學院大學、東京大学、国立歴史民俗博物館、千葉大学の学部・大学院生の卒業・修士論文、論文作成指導を行った(計11名)。
- ㉘【普及活動】土器圧痕ワークショップを多摩六都科学館で一般向けに、中国蘭州大学で大学生に開催した。
- ㉙【調査指導】千葉県教育振興財団や玉川文化財研究所から依頼を受け樹種同定を実施した。(能代修一)

(4) センター構成員が獲得した競争的資金研究

センター員・客員研究員が代表者となる科研費研究は、以下の4件が新規採択された。

基盤研究 (B)

能城修一「4.2ka 寒冷化イベントが日本列島の植生と縄文時代の人々の生活環境に与えた影響の解明」

基盤研究 (C)

諏訪間 順「高精度編年による旧石器時代の構築～相模野台地をモデルケースとして～」

中村由克「先史時代における石器石材の非破壊原産地推定法の開発に関する研究」

大竹憲昭「後期旧石器時代の成立とその出現前夜にかかわるフィールドアーケオロジー」

また客員研究員が分担者となる科研費研究 (B) も1件が新たに採択されている。

以上を含め、2025年度は、計10件の代表者研究、計9件の分担者研究が執行された。

また、文科省の助成金「即戦力となる火山人材育成プログラム」共同研究において「考古学と火山地質学とのマッチングによる浅間山活動史・社会災害史の復元と火山防災」(代表 堤 隆; 2025年8月～26年3月) が採択され、執行された。

II. シンポジウム・講演会他

2025年度は黒耀石センター主催の講演会等の事業を「フォーラム」と呼称するとともに、内容に一貫性をもたせるよう配慮した。また名前の後に付いた※はCOLS構成員であることを示す。また特に記載のない事業はCOLS単独の主催事業である。

(1) COLS 主催・共催事業

第1回 COLS 考古学フォーラム 講演会『後期旧石器時代の新たな遺跡構造論』

日程：2025年4月20日(日) 10:00～16:00

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント
2F 4021 教室

諏訪間 順※ 『かながわの旧石器遺跡の石材と領域を考える』

堤 隆※【諏訪間氏へのコメント】「相模野旧石器遺跡について」

伊藤 健『後期旧石器時代の新たな遺跡構造論』

第2回 COLS 考古学フォーラム 公開講座&映画「掘る女 縄文人の落とし物」無料上映会

日程：2025年5月10日(土) 10:00～15:30

会場：伊那市創造館講堂

大竹憲昭※「信州に初めて訪れた人びとは?—日本列島最古段階の旧石器 竹佐中原遺跡—」

堤 隆※「最古の信州ブランド：黒耀石資源の開発をめぐる謎」

映画『掘る女 縄文人の落とし物』上映 松本貴子監督作品

主催：伊那市創造館・長野県考古学会・明治大学黒耀石研究センター

第3回 COLS 考古学フォーラム「後期旧石器時代の成立と展開」

日程：2025年5月18日(日) 11:00～16:00

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント
2F 4021 教室

大竹憲昭※「竹佐中原石器文化から後期旧石器時代の成立を考える—非石刃石器群と石刃石器群—」

塩原 健(明治大学)「礫塊石器から考える後期旧石器前半期の地域的生業—南九州西多羅ヶ迫遺跡の事例から—」

鈴木忠司「岩宿時代の暮らしと社会の究明のために—礫群を題材として—」

第4回 COLS 考古学フォーラム『列島最古の石刃遺跡 香坂山—達人の技でよみがえる香坂山の石刃作り—』

日程：2025年6月29日(日)

会場：佐久市岩村田浅間会館(佐久市公民館)

講師：金 彦中 東北大学大学院博士後期課程・堤 隆
※・藤森英二※

主催：明治大学黒耀石研究センター・佐久考古学会

後援：佐久市教育委員会・長野県考古学会

第5回 COLS 考古学フォーラム 映画「掘る女 縄文人の落とし物」夏休み無料上映会

日程：2025年8月9日（土）13：30～16：30

会場：佐久穂町生涯学習館 「花の郷・茂来館」メリアホール

【映画上映】『掘る女 縄文人の落とし物』松本貴子監督作品

【アフタートーク】『佐久穂町の遺跡を掘る！』・堤隆※・藤森英二※

主催：明治大学黒耀石研究センター・佐久穂町公民館

後援：長野県考古学会・佐久考古学会

2025 日本考古学学会 公開シンポジウム 一戦後80年3学会連携企画『人類はどこから来て、どこへ向かうのか』

日程：2025年9月7日

会場：明治大学駿河台キャンパス・アカデミーホール

主催：一般社団法人日本考古学協会

共催：日本人類学会・日本旧石器学会・明治大学文学部・明治大学黒耀石研究センター

シンポジウム『関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』

日程：2025年9月27日（土）・9月28日（日）

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 1F 多目的室

主催：石器文化研究会

共催：明治大学黒耀石研究センター

第6回 COLS 考古学フォーラム 映画『掘る女 縄文人の落とし物』上映会 & トークセッション

日程：2025年11月1日（土）9：45～13：00

会場：神奈川県大和市 渋谷学習センター 多目的ホール

【映画上映】『掘る女 縄文人の落とし物』松本貴子監督作品

【トークセッション】堤隆※・諏訪問順※

主催：大和市

共催：明治大学黒耀石研究センター

シンポジウム『香坂山遺跡からさぐる日本列島 現生人

類の起源』

日時：2025年11月15日・16日

場所：佐久市市民創錬センター

主催：長野県考古学会

共催：佐久市教育委員会・明治大学黒耀石研究センター・佐久市考古学会

シンポジウム『鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて』

日時：2025年11月24日（月・祝日）10時30分～16時00分

会場：横浜市歴史博物館

諏訪問 順※「鈴木次郎・矢島国雄による相模野編年の残した意味」

堤 隆※「尖頭器石器群と細石刃石器群の時間的關係：鈴木次郎の並行説再考」

島田和高※「相模野ナイフ形石器文化終末期から尖頭器、細石刃への交代劇：段階編年論再考」

座談会「鈴木次郎と考古学研究・埋蔵文化財保護行政」白石浩之・矢島國雄※・御堂島正・栗原伸好・島田和高※・諏訪問順※・堤 隆※

共催：横浜市歴史博物館

COLS『資源環境と人類 2025 シンポジウム』「草創期の石器群から人類行動多様性と広域製に迫る」

日程：2026年1月24日・25日

会場：明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント（1月24日）

主旨説明 池谷信之※「シンポジウムの趣旨と岡谷丸山遺跡」

普及講演 堤 隆※「縄文文化の幕開け：草創期の多様性と広域展開」

発表1 三好元樹「縄文時代初頭の気候変動と石器の変化～14：40」

基調講演1 橋詰 潤「岡谷丸山遺跡出土石器が提起する縄文時代草創期石器群の諸問題」

発表2 池谷信之※「草創期神津島産黒耀石製両面体石器群のゆくえ」

発表3 中村由克※「岡谷丸山遺跡と大鹿窪遺跡の石器

石材—広域移動する石材—

発表4 藤森英二※「佐久市寺畑遺跡の石器群と黒耀石
原産地」

発表5 深澤麻衣「初期定住化と富士宮市大鹿窪遺跡」
(1月25日)

発表6 尾田識好「前田耕地遺跡の形成過程と生業・居
住形態」

発表7 小栗康寛「矢柄研磨器に関する諸問題—近畿・
中部地方を中心として—」

発表8 橋本勝雄「岡谷丸山遺跡出土の局部磨製石斧の
時間的な位置づけと地域間対比」

発表9 永瀬史人・山田武文「三次元データに基づく岡
谷丸山遺跡出土の矢柄研磨器の検討」

基調講演2 藤山龍造※「ヤングドライアス期を考え
る」

討論 司会：池谷信之※・堤 隆※

**第7回 COLS 考古学フォーラム 「1万3千年前 海を
越え佐久市に来た神津島産黒耀石！—佐久市寺畑遺跡
神津島産黒耀石発見報告会—」**

日時：2月14日(土) 13:00～15:00

会場：長野県佐久市浅科 交流文化会館浅科(穂乃香ホー
ル)

柳田清二「佐久市長あいさつ」

松下友樹「発見された寺畑遺跡とは？」

藤森英二※「なぜ神津島産黒耀石とわかったか」

池谷信之※「神津島産黒耀石の発見はどうして重要な
か？」

第8回 COLS 考古学フォーラム 「旧石器時代の探求」

日程：2026年2月21日(土) 10:00～17:00

会場：明治大学 リバティータワー 7階1076教室 1
階1011教室

「押圧剥離の実験ワークショップ」『パレオラブ』

八ヶ岳あおば旧石器文化賞授賞式

記念発表 八ヶ岳あおば旧石器文化賞受賞者

吉田真優(東北大学大学院)『石英製石器の使用痕分
析—その意義と方法論的課題への挑戦—』

研究発表 高草木和佳子(明治大学)

『ナイフ形石器終末期における石器群の多様性とその背
景—相模野台地を対象とした石器製作の遺跡間連鎖を
通じて—』

記念講演 小野 昭(元 COLS センター長 元日本旧石
器学会会長)

『異質で不連続な現象に出会うとき新たな発想が生ま
れる』

石器石材研修 2026 野尻湖

日程：2026年2月28日～3月2日

会場：野尻湖ナウマンゾウ博物館

内容：岩石学基礎編 石材となる岩石鉱物の分類・石器
石材鑑定法

応用編 黒耀石の晶子形態法・安山岩の帯磁率法・
珪質頁岩の実体鏡観察

主催：中村由克※(科研費基盤研究(C))

共催：明治大学黒耀石研究センター

(2) 特別公開授業『旧石器時代考古学の論点Ⅱ』

明治大学文学部では、考古学専攻の専門科目として「旧
石器時代の考古学」を設置している。昨年度からは
COLSと連携し、藤山龍造センター長(文学部専任教授)
と池谷信之・堤 隆の特任教授2名でこの講座を分担す
ることになった。講座の内容は黒耀石研究を含む旧石器
考古学の最前線にわかりやすく迫るものとなっており、一
般にも公開している。

第1回 2025年10月23日(木) 15:20～17:00

池谷信之 「旧石器捏造に至るそれぞれの道のり」

第2回 2025年11月27日(木) 15:20～17:00

堤 隆 「ハンティング：旧石器人はどんな狩りをし
たか？」

第3回 2025年12月18日(木) 15:20～17:00

藤山龍造 「ヒトはなぜ洞穴に住んだか？」

(3) 文学部設置科目の運営協力

日程：2025年10月12日(日)

内容：文学部設置科目「基礎演習(考古学)」(担当：佐々
木憲一専任教授、鶴来航介専任講師)における
フィールド踏査の実施に協力した。文学部の依頼

を受けて、池谷・堤・藤森英二補助研究員が対応し、黒耀石研究センター長和分室、長和町黒耀石体験ミュージアム、さらに周辺の遺跡を複合的に活用することで、大学教育に貢献することが出来た。

(4) 明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会

COLS ではメンバーの研究成果の発表と情報交換を目的として1年に1回、研究集会を開催し、オンラインで外部にも公表している。今年度は9名が口頭発表、7名が紙上発表した。

日程：2025年 12月6日(土) 13:30～17:10

会場：明治大学猿楽町第三校舎4階 COLS 先史考古学研究室

開催形式：対面、オンライン併用ハイブリッド方式

【口頭発表】

中村由克「サヌカイト・安山岩石材の原産地推定—岡谷丸山遺跡・大鹿窪遺跡・六通神社南遺跡—」

堤 隆「浅間山の火山砕屑物と遺跡年代」

池谷信之「陸橋説と旧石器捏造、そして3万年前の航海」

鈴木美保「南関東の旧石器時代編年と MIS2 の環境変動 2—古気候シミュレーションモデルとの対比—」

諏訪間順「深見諏訪山遺跡第Ⅲ文化層 B1 上部石器群の再評価」

能城修一「京都府水主神社東遺跡・下水主遺跡における縄文時代の木材資源利用」

谷畑美帆「7世紀以前の医療と病気について—神話と考古学から—」

矢島國雄「日本考古学協会アーカイブ構築の意義」

藤山龍造「チェコ科学アカデミーでの学術交流を通じて」

【紙上発表】

佐々木由香「先史時代の有用植物とその成分」

鳥田和高「多久安山岩原産地三年山地区における石器群の多様性について」

栗島義明「仙人窟の草創期石鏃製作」

大竹憲昭「池の平遺跡群および竹佐中原遺跡の発掘調査」

須藤隆司「千葉県角田台遺跡と駒形遺跡の男女倉システム」

藤森英二「佐久市寺畑遺跡の黒耀石原産地推定から」

遠藤英子「農耕と牧畜の中間地帯_カザフスタン南西部

鉄器時代の栽培穀物」

(5) 明治大学考古学同好会「石器製作ワークショップ」

日程：2025年9月19日(金)

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント

内容：考古学同好会の要請を受けて、「石器製作ワークショップ」の技術指導を実施した。本ワークショップは黒耀石研究センターの教育活動の一環として、これから考古学を学んでゆく1～2年生を中心に、黒耀石を用いた石器作りの基礎を解説し、実際の製作作業を通じて考古学への理解と興味を深める機会とした。

主催：明治大学考古学同好会 共催：COLS

(6) オープンキャンパス

日程：2025年8月6日～7日

内容：駿河台オープンキャンパスにCOLSとして参加。考古学専攻を目指す切っ掛けになればと、「黒耀石研究センターワークショップ・チャレンジ実験考古学！」を開催した。石器の基礎知識をスライドで解説、さらに黒耀石を使った石器作りを体験してもらうことを試みた。準備運営は藤山、池谷、堤、鈴木美保特別嘱託、藤森に加え、考古学専攻の学生・院生に加わってもらった。参加者は2日間で373名に及んだ。

(7) 研究・知財戦略機構「研究交流会」

日程：2026年3月28日(土)

会場：明治大学生田キャンパス センターフォレスト

内容：明治大学研究・知財戦略機構が主催する「研究交流会」にて、「黒耀石研究センターの最近の取り組み(1)」と題して、藤山・池谷・堤が連名でポスター発表した。これによって、黒耀石研究センターの最新の研究活動や成果を学内の研究者に広く紹介し、他分野との連携や情報交換の促進、センターの認知度向上に寄与した。

(8) 国際研究交流

2025年7月、堤はイタリアの International Research

Institute for Archaeology and Ethnology のダニエレ博士らのチームが主導する長崎県対馬市鬼ヶ崎遺跡の発掘調査に協力し、縄文早期の石器製作址を検出、終了後石器の3D図化作業などを進めた。

2025年10月、ポーランド科学アカデミー考古学・民族学研究所のダグマラ氏およびビョートル氏が、北海道大学考古学研究室の高瀬克範教授の案内で、明治大学黒曜石研究センターの長和分室(26日)および猿楽町本部(28日)を訪れ、池谷・堤・能城らの案内でセンターを見学、石材研究に関する意見交換を行った。

2025年10月30日、チェコ共和国の首都プラハにて、チェコ科学アカデミー(Czech Academy of Sciences, CAS)からの招待を受け、藤山が、「Between subarctic and subtropical zones: How did hunter-gatherers in the Far East adopted ceramic technology during the Late Pleistocene?」と題し、日本列島を起点に土器の誕生と拡散をめぐるメカニズムに焦点を当てた講演を行った。

2026年1月29日～2月3日、堤および諏訪間は台湾に渡航し、国立台湾史前文化博物館の曾于宣研究員の案内で、八仙洞旧石器遺跡とその出土資料の調査を行い、両国の旧石器文化の差異について議論を深めた。また、台北の台湾大学人類学博物館および順益原住民族博物館では、台湾原住民の民族誌について調査を行った。

2025年6月20日～24日、第12回アジア旧石器学会が東北大学を会場として開催され、堤と鈴木は実行委員としてこの大会の運営に参画した。また堤は開催地のホストとして開催挨拶を担当した。COLS関係者の以下の発表があった。

堤 隆「Review: Upper-Paleolithic Period on Japanese Archipelago (ポスター)」

鈴木美保「Discussion on the origin of the pressure flaking technique on Paleo-Honshu Island(ポスター)」

2025年6月25日、国立科学博物館と国立台湾史前文化博物館の共催イベント『3万年前の航海徹底再現プロジェクト』を総括する論文「Paleolithic seafaring in East Asia: An experimental test of the dugout canoe hypothesis」(海部陽介ほか)が『Science Advances』11-26に掲載された。池谷はこの実験航海に参加するとともに共著者となっている。

Ⅲ. 地域連携

(1) 長和町

長和分室の位置する長和町とは、常に連携を行ってきたが、2025年度は、8月30日に開催された町主催の「第21回黒曜石のふるさと祭り」において、池谷、鈴木、藤森で「黒曜石の原産地クイズ」を長和分室で実施した。またこの日を含め、藤山が複数回町を訪問し、町長や教育委員会スタッフと意見交換を行っている。

外部からの訪問・見学等でも、長和分室と町の黒曜石体験ミュージアムとの連携を行い、研究と保存・活用における、本学と町の一体感の体现を心掛けている。

また、須藤隆司客員研究員を中心に、長和町男女倉遺跡の整理作業に黒曜石原産地推定などで協力。2026年3月末に報告書刊行予定である。

(2) 佐久市

COLSでは、佐久市にある日本列島最古の石刃石器群の遺跡、香坂山遺跡の発掘調査と研究に2020年から協力してきた。2025年9月、同遺跡はその重要性が評価されて国史跡に指定され、協力した須藤、堤に佐久市長より感謝状が送られた。

また2025年11月、かつて佐久市教育委員会が発掘調査した同市内の寺畑遺跡出土の黒曜石産地分析を実施した。その結果、信州系黒曜石の他、神津島産黒曜石の搔器1点を確認、佐久市と共同で記者会見を実施した。信濃毎日新聞・産経新聞で報道されたほか、テレビでは長野朝日放送・NHKがニュースとして取り上げた。神津姓が多い佐久市は、1994年から東京都神津島村と友好都市として提携関係にあり、1万年を遡る両市村の交流として大きな話題になった。

(3) 神津島村

佐久市寺畑遺跡で神津島産黒曜石が発見されたことを契機に、2026年1月17日、柳田佐久市長・神津教育長・清水市議会議長・佐久市文化財課職員とともに、堤隆特任教授が神津島村を訪問した。現地では前田村長・桜井副村長・清水教育長・石田村議会議長らの出迎えを受け、18日には神津島産黒曜石の検出の詳細を島内の会

場で紹介した。報告会には多くの村民の参加もあって両市村の交流にも益することができた。

(4) 南牧村

COLSでは2023年度から長野県南佐久郡南牧村志なの入遺跡の調査研究に協力してきたが、この遺跡から出土した5,700年前の縄文人骨の人体復元模型が完成し、公開が行われた。信濃毎日新聞による記事掲載、および長野朝日放送・NHKでTV放送がなされた。堤が復元の考証全般を担当し、鈴木美保特別嘱託は模型が手に持つ石器複製を作製、リアルなその姿に大きな反響があった。模型を展示する同村の資料館では、通常の2倍を上回る観覧者があった。

IV. 黒耀石研究センターの運営

(1) 運営委員会

2025年度黒耀石研究センター運営委員会を以下の通り2回開催し、審議事項について了承を得た。

第1回（メール審議）

日時：2025年6月3日～9日

【配布資料】

資料No.1：2024年度第2回黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）

資料No.2：2025年度黒耀石研究センター構成員の一部変更について

【審議事項】

- (1) 2024年度第2回明治大学黒耀石研究センター運営委員会議事録の確認について
- (2) 2025年度黒耀石研究センター構成員の一部変更について

第2回

日時：2026年2月19日（木）16：00

場所：駿河台キャンパス・グローバルフロント7階 C4会議室

【配布資料】

資料No.1：明治大学黒耀石研究センター要項

資料No.2：2025年度第1回明治大学黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）

資料No.3：2025年度明治大学黒耀石研究センター事業報告（案）

資料No.4：2026年度明治大学黒耀石研究センター構成員一覧（案）

資料No.5：2026年度明治大学黒耀石研究センター事業計画（案）

【審議事項】

- (1) 2026年度明治大学黒耀石研究センター構成員について（資料No.4）
- (2) 2026年度明治大学黒耀石研究センター事業計画について（資料No.5）

(2) 黒耀石研究センター例会

1ヶ月～2ヶ月に1回を目安に例会を開催し、事業の実施経過や計画、構成員による研究の進捗を報告し、センター運営について協議した。

開催日：2025年4月18日、5月23日、7月4日、10月3日、11月21日、2026年1月16日、3月6日

(3) 黒耀石研究センターの組織

センター長 藤山龍造（文学部教授）

副センター長 池谷信之（特任教授）

センター員 堤 隆（特任教授）

センター員 矢島國雄（文学部名誉教授）

センター員 石川日出志（文学部名誉教授）

センター員 鶴来航介（文学部専任講師）

センター員 佐々木夏来（文学部専任講師）

センター員 島田和高（元明治大学博物館学芸員）

センター員 能城修一（元黒耀石研究センター客員教授）

客員研究員 栗島義明（元黒耀石研究センター特任教授）

客員研究員 佐々木由香（金沢大学古代文明・資源学研究所特任准教授）

客員研究員 遠藤英子（さいたま市史編さん調査員）

客員研究員 諏訪問順（日本城郭協会学術委員・評議員）

客員研究員 谷畑美帆（文学部兼任講師）

客員研究員 中村由克（群馬県下仁田町自然史館館長）

客員研究員 平井義敏（みよし市教育委員会）

客員研究員 須藤隆司（元黒耀石研究センター特別嘱託職員）

客員研究員 大竹憲昭（長野県立歴史館 調査専門委員）
特別嘱託 鈴木美保
補助研究員 藤森英二
運営委員

藤山龍造・池谷信之・堤隆・鶴来航介・佐々木夏来（以上、黒耀石研究センター）
河野理（研究推進部長）
佐藤宏之（東京大学名誉教授）
長崎潤一（早稲田大学文学学術院教授）

事務局

中村麻理・市川浩行

（4）刊行物

ニューズレター 23号（9月末）・24号（3月末予定）, 『資源環境と人類』第16号（3月末予定）を刊行した。なおニューズレターについては、23号から2頁増の計6頁となっている。

（5）大学役職者の長和町表敬訪問

日程：2026年3月18日（水）

内容：中別府研究担当副学長が地域連携の一環として長和町の羽田町長を表敬訪問した。長和町と明治大学の社会連携の意義や今後の協力体制について確認するとともに、黒耀石研究センター長和分室の活動や研究成果を共有した。藤山センター長のほか研究知財事務室の職員が同行し、あわせて黒耀石研究センターの長和分室の視察も実施した。

（6）表彰

2025年6月 中村由克「日本旧石器学会賞」日本旧石器学会

（7）日誌抄

2025年4月1日 本日付で藤山龍造が黒耀石研究センター・センター長として任用された。同日、藤森英二が補助研究員として任用された。

2025年4月3日 池谷信之副センター長、本日から長和分室滞在（～4日）、藤森補助研究員へ、センター運営、長和分室の管理の説明。藤森、事務室のファイル等整

理の開始。和根崎剛（上田市教育委員会）、長和分室に来館。長和町教育委員会黒耀石体験ミュージアムのメンバーと今年度の事業等について懇談。

2025年4月18日 COLS 例会・全体会。

2025年4月20日 第1回 COLS 考古学フォーラム。

2025年4月22日 矢島國雄センター員、長和分室来館。

2025年4月24日 中村由克客員研究員、男女倉遺跡の石器石材鑑定のため、長和分室で分析作業。一般見学者1名（長和分室）。

2025年5月1日～9日 野口智耀（大正大大学院）、男女倉遺跡出土石器の使用痕観察等のため、長和分室に滞在。

2025年5月2日 長和分室にて、蛍光X線装置による千葉県東三里塚・船尾白幡・地国穴台遺跡出土の細石刃石器群の原産同定を開始。

2025年5月10日 第2回 COLS 考古学フォーラム。

2025年5月18日 第3回 COLS 考古学フォーラム。

2025年5月20日 一般見学者3名（長和分室）。

2025年5月9日 COLS パンフレットの編集作製を始める。

2025年5月23日 COLS 例会。

2025年5月26日 COLS 公式 Facebook 運用開始。

2025年5月30日～6月6日 池谷副センター長が黒耀石原産地推定などのため長和分室に滞在。

2025年6月1～10日 野口智耀（大正大大学院）、男女倉遺跡出土石器の使用痕観察等のため、長和分室に滞在。

2025年6月3日～9日 第1回 COLS 運営委員会（メール審議）。

2025年6月6日 中村耕作（国立歴史民俗博物館）、伊沢加奈子（壬生町教育委員会）、長和分室訪問。

2025年6月12日 長和分室分析室の WDXRF 用 PR ガス交換。

2025年6月17日 堤隆特任教授と藤森補助研究員、株式会社いとうから、トータルステーション（長和分室管理）の使用法の講習を受ける。

2025年6月20日～24日 東北大学にてアジア旧石器学会開催、堤特任教授・池谷副センター長と鈴木特別嘱託が参加。

- 2025年6月27日 長和分室のエレベーター点検, コピー機修理.
- 2025年6月29日 第4回 COLS 考古学フォーラム.
- 2025年7月4日 COLS 例会.
- 2025年7月8日～7月17日 池谷副センター長が黒曜石原産地推定等のため長和分室に滞在.
- 2025年7月15日 中村客員研究員, 黒曜石晶子形態研究の打ち合わせ, サヌカイト製石器の石材観察のため, 長和分室で分析作業.
- 2025年7月29～8月1日 駿河台オープンキャンパス用の黒曜石剥片作製.
- 2025年7月29日 COLS パンフレット (A4 三つ折り), クリアファイル完成. COLS の活動内容や黒曜石についてビジュアル的に解説. 各種イベント等でも配布開始.
- 2025年7月30日 茨城県立自然博物館より3名の視察. 藤森が対応.
- 2025年8月1日 長野県佐久市寺畑遺跡の黒曜石石器 (縄文草創期) の原産地推定分析始める.
- 2025年8月6～7日 駿河台オープンキャンパスに参加. 「黒曜石研究センターワークショップ・チャレンジ実験考古学!」と銘打ち, 石器の基礎知識を解説後, 黒曜石を使った石器作りを体験してもらう. スタッフには, 考古学専攻の学生・院生が加わる. 参加者は2日間で373名.
- 2025年8月9日 第5回 COLS 考古学フォーラム.
- 2025年8月12～17日 野口智耀 (大正大大学院), 男女倉遺跡出土石器の使用痕観察等のため, 長和分室に滞在.
- 2025年8月12日 豊橋市教委村上昇氏来館. 一般見学者2名 (長和分室).
- 2025年8月26日 白田星良 (國學院大学学部生), 長和分室見学.
- 2025年8月27日 モン・ハンシュウ, ソウ・ウセン (共に東京大学院生) が長和分室に来館・資料見学. 堤特任教授が対応.
- 2025年8月28日 勅使河原彰, 三上徹也, 長和分室に来館.
- 2025年8月28日～9月3日 池谷副センター長が長和分室に滞在.
- 2025年8月30日 長和町黒曜石のふるさとまつりに, 「黒曜石原産地当てクイズ」で参加.
- 2025年9月2日 国士舘大学地学教室 (19名), 長和分室見学. 池谷副センター長, 藤森補助研究員が対応.
- 2025年9月2日 長和分室, エレベーターの点検作業.
- 2025年9月7日 日本考古学学会 公開シンポジウム—戦後80年3学会連携企画『人類はどこから来て、どこへ向かうのか』(共催事業)
- 2025年9月26日 藤山センター長と藤森補助研究員で, 2026年度の合宿の計画をオンラインで検討. 一般来館者2名 (長和分室).
- 2025年9月27日・28日 シンポジウム『関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』を駿河台キャンパス・グローバルフロントにて開催.
- 2025年9月29日 千葉県教育振興財団文化財センターの可搬型蛍光X線分析装置の立ち上げをサポート.
- 2025年10月3日 COLS 例会・第2回全大会
- 2025年10月12日 明治大学考古学専攻生とスタッフ計55名が長和分室見学. 池谷副センター長, 堤特任教授, 藤森補助研究員で対応.
- 2025年10月17日 合宿計画について, 藤森補助研究員と長和町教育委員会メンバーで打ち合わせを行う.
- 2025年10月21日 一般見学者5名 (長和分室).
- 2025年10月23日 特別公開授業『旧石器時代考古学の論点Ⅱ』第1回 担当: 池谷副センター長.
- 2025年10月24日 藤森補助研究員と長和町教育委員会で合宿計画について打ち合わせ. 株式会社オリバーによる長和分室清掃作業.
- 2025年10月26日 ポーランド科学アカデミー考古学・民族学研究所一行が長和分室を訪問.
- 2025年10月28日 ポーランド科学アカデミー考古学・民族学研究所一行がCOLS 猿楽町本部を訪問.
- 2025年10月28日 長和分室消防設備点検. 屋外水道の水抜き行う.
- 2025年10月30日 藤山センター長がチェコ科学アカデミーの招待を受け, プラハにて講演.
- 2025年11月1日 第6回 COLS 考古学フォーラム.
- 2025年11月5日 藤森補助研究員と長和町教育委員会

で合宿計画について打ち合わせ。

2025年11月8日 日本考古学協会賛助会員が長和分室見学。池谷副センター長、堤特任教授が対応。

2025年11月11日 藤森補助研究員と長和町教育委員会で合宿計画について打ち合わせ。

2025年11月15日・16日 シンポジウム『香坂山遺跡からさぐる日本列島 現生人類の起源』（共催事業）を佐久市市民創練センターにて開催。

2025年11月24日 シンポジウム『鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて』（主催事業）を横浜市歴史博物館にて開催。

2025年10月23日 特別公開授業『旧石器時代考古学の論点Ⅱ』第2回 担当：堤特任教授。

2025年11月24日～27日 野口智耀（大正大大学院）、男女倉遺跡出土石器の使用痕観察等のため、長和分室に滞在。

2025年12月6日 COLS2025 研究集会。

2025年12月12日 藤山センター長、長和分室に来訪。池谷副センター長、藤森補助研究員と共に、長和町黒曜石体験ミュージアムにて、長和町教育委員会と合宿や長和町黒曜石ふるさと祭りについて意見交換。

2025年12月17日～28日 隅田祥光長崎大学准教授（元黒曜石研究センター）、波長分散型蛍光 X 線分析装置による黒曜石原石測定のため長和分室に滞在。

2025年12月18日 特別公開授業『旧石器時代考古学の論点Ⅱ』第3回 担当：藤山センター長。

2025年12月15日～18日 池谷副センター長が長和分室に滞在。

2025年12月18日～19日 中村客員研究員、男女倉遺跡の石器石材鑑定のため、長和分室で分析作業。

2025年12月22日 長和分室2階コピー複合機の修理。長和分室の収蔵庫整理とリスト化を開始。

2025年1月16日 COLS 例会。

2026年1月17日 堤特任教授が神津島村訪問。

2026年1月19日 長和分室の廃棄物を整理。インターネット接続環境の確認点検。

2026年1月23日～30日 隅田長崎大学准教授（元黒曜石研究センター）、波長分散型蛍光 X 線分析装置による黒曜石原産地測定のため長和分室に滞在。

2026年1月24日・25日 COLS『資源環境と人類 2025 シンポジウム』「草創期の石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る」を駿河台キャンパス・グローバルフロントにて開催。

2026年1月31日 長和分室入り口ホールの展示ケースのガラス破損。原因経年劣化と寒暖差と思われる。

2025年2月5日～2月10日 池谷副センター長が長和分室に滞在。

2026年2月9日 長和分室の廃品回収。

2026年2月10日 池谷副センター長、藤森補助研究員、長和町教育委員会の三木洋平係長と、収蔵庫整理について協議。

2026年2月13日 長和分室 Wi-Fi ルーターの交換。

2026年2月19日 COLS 運営委員会開催。

2026年2月13日～20日 隅田長崎大学准教授（元黒曜石研究センター）、波長分散型蛍光 X 線分析装置による黒曜石原産地測定のため長和分室に滞在。

2026年2月16日・17日 池谷副センター長、神奈川県埋蔵文化財センターが導入した蛍光 X 線分析装置稼働に伴う技術指導。

2026年2月21日 第8回 COLS 考古学フォーラム

2026年2月28日～3月2日 「石器石材研究 2026 野尻湖」（中村由克科研費 C 事業）。

2026年3月2日 長和分室、展示ケースのガラス修。

2026年3月6日 COLS 例会。

2026年3月11日～3月19日 池谷副センター長が長和に滞在。

2026年3月15日～20日 隅田長崎大学准教授（元黒曜石研究センター）、波長分散型蛍光 X 線分析装置による黒曜石原産地測定のため長和分室に滞在（予定）。

2026年3月18日 中別府修副学長ほか、長和町訪問（予定）。

V. 研究業績一覧

(1) 雑誌論文・著書

池谷信之 2025「黒曜石原産地推定」山田武文・池谷信之編『矢柄研磨器の研究 岡谷丸山遺跡西区報告書一 縄文時代草創期の様相一』「郷土の文化財」36 岡谷市

- 教育委員会：105-108
- 池谷信之 2025「静岡県河津町見高段間遺跡出土の神津島産黒耀石原石」『帝京大学文化財研究所研究報告』23：69-76
- 池谷信之・高倉純 2025「北海道大が構内 K39 遺跡北方フィールド科学センター実習棟地点出土黒耀石の原産地推定」『北大構内の遺跡』31：36-40
- 池谷信之・堤隆（編）2025『黒耀石考古学が拓く新たな研究の地平』季刊考古学 172 128p. 雄山閣
- 遠藤英子 2025「王山遺跡第 16～18 次調査出土土器を対象とした土器圧痕調査」和光市教育委員会編『市内遺跡発掘調査報告書 29』和光市埋蔵文化財調査報告書 73 和光市教育委員会
- 太田 圭・小久保竜也・佐々木由香 2025「土器圧痕からみた岩手県域における穀物利用の様相—北上川流域を中心に—」『岩手考古学』35：19-35
- 大塚宜明・池谷信之 2025「擦文後期における黒耀石製石器の研究—美深町楠遺跡を中心に—」『札幌学院大学人文学会紀要』117：1-43
- 大塚宜明・池谷信之 2026「擦文文化後期のオホーツク海沿岸地域における黒耀石の利に関する予察」『資源環境と人類』16：印刷中
- 金井拓人・坂坂康夫・池谷信之 2025「山梨県甲州市大木戸遺跡出土の黒耀石および水晶の原産地とその供給—天城柏峠産黒『帝京大学文化財研究所研究報告』23：1-23
- 國木田 大・小山侑里子・佐々木由香・山下優介・山本華・米田 穰 2025「板橋区西台後藤田遺跡および四葉地区遺跡出土炭化穀類の年代」『板橋区立郷土資料館紀要』25：35-48
- 国武貞克・須藤隆司 2025「香坂山インダストリーからみた日本列島旧石器研究の再編」『長野県考古学会誌』167：1-10
- 栗島義明 2025「群馬県中之条町天神遺跡出土のヒスイ製大珠」『利根川』47：129-142
- 栗島義明 2025「洞窟遺跡にみる縄文草創期の生活痕跡」『季刊 考古学』172：91-95
- 栗島義明（編）（印刷中）2026『群馬県仙人窟の発掘調査概報』45p. きら書房
- 栗島義明（印刷中）「書評『海峡を越えた旧石器人類』」『考古学研究』88
- 小泉玲子・佐々木由香（編）2025『中屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ 第 9?14 次調査』120p. 昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科中屋敷遺跡調査団
- 小中美幸・佐々木由香（編）2025『夏見台遺跡（79）発掘調査報告書』船橋市教育委員会
- 小林和貴・佐々木由香・鈴木三男・能城修一・大山幹成 2025「炭化植物遺体の同定」青森県埋蔵文化財調査センター編『鉢森平（7）遺跡第 2 分冊』青森県教育委員会：13-28
- 小林和貴・能城修一・小倉慈司 2025「金漆採取の候補植物であるウコギ科 3 種の樹皮組織の構造」『植生史研究』33：57-64
- 金剛萱遺跡研究会（文責・中村由克）2025「金剛萱遺跡の旧石器文化 9-2024-」『下仁田町自然史館研究報告』10：17-27
- 佐々木由香 2025「中屋敷遺跡からみた弥生時代前期の植物資源利用」小泉玲子・佐々木由香他 6 編『中屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ 第 9～14 次調査』昭和女子大学人間文化学部：111-115
- 佐々木由香 2025「取掛西貝塚の植物資源利用の特徴」船橋市教育委員会生涯学習部文化課埋蔵文化財調査事務所編『史跡 取掛西貝塚調査研究報告～植物遺 船橋市教育委員会：57-64
- 佐々木由香 2025「炭化種実」船橋市教育委員会編『夏見台遺跡（79）発掘調査報告書』船橋市教育委員会：18-20
- 佐々木由香 2025「中屋敷遺跡からみた弥生前期の植物資源利用」『昭和女子大学文化史研究』28：3-6
- 佐々木由香・片岡太郎・小林和貴・鹿納晴尚・小久保拓也・能城修一・落合美玲 2025「X 線 CT 画像解析による縄文時代の籃胎漆器の技法—八戸市中居遺跡と一戸町山井遺跡を中心に—」『八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要』14：1-21
- 佐々木由香・小池咲菜・丹野美夢・宮原可奈・小幡 萌 2025「レプリカ法による土器種実圧痕の同定（2）」小泉玲子・佐々木由香他 6 編『中屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ 第 9～14 次調査』昭和女子大学人間文化学部：

89-110

佐々木由香・小久保竜也 2025「坂ノ上遺跡(1)から出土した炭化種実」船橋市教育委員会編『坂ノ上(1)遺跡』船橋市教育委員会：47-48

佐々木由香・小久保竜也・杉本 亘・蒲生侑佳・富高直人・黒住耐二・三浦武司・中野幸大・本間 宏 2025「レプリカ法による福島県前田遺跡出土の縄文土器圧痕の同定(2)」『福島県文化財センター白河館研究紀要』23：9-29

佐々木由香・能城修一 2025「炭化種実・炭化材樹種同定」公益財団法人茨城県教育財編『鳥名境松遺跡3』公益財団法人茨城県教育財：436-441

佐々木由香・能城修一・大網信良 2025「土器圧痕からみた縄文原体の形態と植物素材」『考古学ジャーナル』815：9-17

佐々木由香・早坂仁敬 2025「取掛西貝塚5次・7次・8次調査から出土した炭化種実」船橋市教育委員会生涯学習編『史跡 取掛西貝塚調査研究報告～植物遺体特集～』船橋市教育委員会：29-39

島田和高 2025「広原遺跡群再訪—中部高地黒曜石原産地における人間行動」『季刊考古学』172：55-59

島田和高・杉原敏之・越知陸和・岩永雅彦 2026「多久安山岩原産地三年山地区における石器技術の空間構成と時系列変化」『資源環境と人類』16：印刷中

鈴木美保 2025「南関東の石器群編年とMIS2の環境変動」『石器文化研究』22：66-72

須藤隆司 2025「信州黒曜石による男女倉システムの広がり」と始まり」『季刊考古学』172：59-63

須藤隆司 2005「日本列島最古の石器と人類の探求」『翠巒』71：30-32

諏訪問順 2025「関東域における海と山の黒曜石資源利用の動態—神津島・伊豆・箱根・高原山原産地をめぐって」『季刊考古学』172：38-42

諏訪問順 2025「南関東の旧石器編年の学史的検討」『石器文化研究』23：23-28

堤 隆 2025「日本列島の後期旧石器時代」長野県考古学会編『シンポジウム 香坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源』長野県考古学会：1-9

堤 隆 2025「信州産黒曜石の旧石器ロジスティクス」『季

刊考古学』172：43-49

堤 隆 2025「黒曜石が語る旧石器時代人像」『九州旧石器』29：1-9

堤 隆・大竹憲昭・桜井秀雄・能城修一・安井真也 2025「浅間火山テフラ下における下茂内第Ⅱ文化層尖頭器石器群とその時代」『長野県考古学会誌』167：51-65

ロビン・トレンス(島田和高訳) 2025「希少で輝きを放ち、象徴的な存在—中期完新世パプアニューギニアの社会的紐帯を築いた黒曜石製有茎石器」『季刊考古学』72：87-91

中村由克 2025「水林下遺跡出土の珪質頁岩・玉髓および石斧石材の特徴」山形県埋蔵文化財センター編『水林下遺跡第1～3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター：附8-16

中村由克 2025「出土石器の石材分析」佐久市教育委員会編『長野県佐久市香坂山遺跡総括報告書』佐久市教育委員会：92-98

中村由克 2025「石器石材と原産地」岡谷市教育委員会編『矢柄研磨器の研究 岡谷丸山遺跡西地区報告書』岡谷市教育委員会：88-104

中村由克 2025「岡谷丸山遺跡出土の縄文土器の胎土」岡谷市教育委員会編『矢柄研磨器の研究 岡谷丸山遺跡西地区報告書』岡谷市教育委員会：120-131

中村由克 2025「黒曜石「晶子形態法」復活の目的と成果」『季刊考古学』172：26-30

西本志保子・金子悠人・奈良部大樹・佐々木由香・長澤有史 2025「上中丸遺跡のレプリカ法による土器圧痕調査報告」『相模原市立博物館研究報告』33：1-20

野尻湖人類考古グループ(分担執筆・中村由克) 2025「第23次野尻湖発掘の考古学的成果」『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』33：33-50

能城修一 2025「小河内神社の木彫像の樹種」東京都教育委員会編『西多摩郡彫刻調査報告書—小河内神社所蔵の木彫像—』東京都教育委員会：15-16

能城修一 2025「神奈川台場跡出土木材樹種同定結果」国際文化財株式会社編『神奈川県横浜市神奈川区神奈川台場跡第8地点』国際文化財株式会社：125-134

能城修一 2026「4.2 ka イベントにより生じた世界各地

- の気候変動と生活環境に与えた影響」『植生史研究』34：3-22
- 能城修一・小林和貴・佐々木由香・鈴木三男・菅野紀子 2025「縄製作実験による縄文時代の撚り縄素材選択の解明」『植生史研究』33：51-57
- 能城修一・佐々木由香・小林和貴・國井秀紀・菅野紀子 2026「縄文時代の縄の対照資料としての現生植物製の縄の観察」『資源環境と人類』16：印刷中
- 藤野次史・中村由克・竹田千紘・洪恵嬢・沖憲明・稲村秀介・川島尚宗 2025「帯磁率を利用した安山岩原産地推定と石材運用の研究」『旧石器研究』21：127-143
- 藤森英二 2025「縄文の石棒 佐久地域を例に」『佐久考古通信』122：2-4
- 藤森英二・芹沢一路・池谷信之・堤隆 2026「浅間山南麓における縄文中期後半の黒曜石利用の動態—川原田遺跡・広畑遺跡・面替小谷ヶ沢遺跡 A 地区の原産地推定から—」『資源環境と人類』16：印刷中
- 藤森英二・松下友樹・池谷信之・堤隆 2025「寺畑爪形文土器群と黒曜石利用—佐久市寺畑遺跡黒曜石原産地推定から—」『長野県考古学会誌』167：65-85
- 藤山龍造・堤隆 2025「長野県松川町・北の城遺跡出土の下呂石製尖頭器とその含意」『資源環境と人類』16：印刷中
- 山下優介・國木田大・佐々木由香・山本華・米田穰 2025「文京区小日向台町遺跡出土炭化穀類の年代と出土土器圧痕調査」『東京大学構内遺跡調査研究年報』17：159-166
- 山田武文・池谷信之（編）2025『矢柄研磨器の研究 岡谷丸山遺跡西区報告書—縄文時代草創期の様相—』郷土の文化財 36, 147p. 岡谷市教育委員会
- Endo, E., Kaliyeva, Z., Utubayev, Z., Kasenova, A., Suyundikova, M., Onggaruly, A., Spengler, R., Shoda, S. 2025 Grain impressions in ceramic vessels illustrate the extent of 1st millennium BC agriculture across the northern Central Asian steppe. *Vegetation History and Archaeobotany* 35：363-376
- Kamiya, Y., Honda, T., Nagai, Y., Watanabe, C., Miyakoshi, T., Wang, N., Sun, G., Jiang, L., Liu, B., Noshiro, S., Nakamura, S. 2026 Use of lacquer collected from *Toxicodendron succedaneum* for the Neolithic lacquerware detected in Zhejiang Province of China. *Journal of Cultural Heritage* 77：254-265
- Kobayashi, K., Nakamura, I., Torigoe, T., Noshiro, S. 2025 Scientific analysis on two Christian lecterns in Portugal: A wooden substrate investigation. 『保存科学』64：43-61
- Nakazawa, Y., Muramoto, S., Akai, F., Yamada, S., Takakura, J., Seshimo, N., Yamahara, T., Nakamura, Y., Tsutsumi, T., Ikeya, N. 2025 Human Adaptation to the High-Altitude Permafrost Zone at Daisetsuzan National Park, Japan. *Journal of Field Archaeology*：1-18
- Noshiro, S., Sasaki, Y., Yoshikawa, M., Kudo, Y., Bhandari, S. 2025 Survival through the 4.2 ka event by Jomon hunter-gatherers with adapted management and use of plant resources detected at the Denotame site in central Japan. *Vegetation History and Archaeobotany* 34：685-700
- (2) 学協会発表（講演要旨・予稿集）
- 安藤寿康・柿沼美紀・和田幹彦・佐々木由香「縄文土器製作能力の伝達様式の検討—馬高式火焰型土器と勝坂式楕円区画文土器の比較—」第21回子ども学会議（日本子ども学会学術集会）。2025年11月8日。秋田大学。ポスター
- 安藤寿康・柿沼美紀・和田幹彦・佐々木由香「縄文時代におけるマテリアル製作の認知過程」日本発達心理学会第37回大会。2026年3月3日。福岡国際会議場。ポスター
- 池谷信之「陸橋説と旧石器捏造，そして「3万年前の航海プロジェクト」」明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』：6-7。口頭
- 池谷信之「黒曜石分析から探る旧石器時代」シンポジウム『香坂山遺跡からさぐる日本列島 現生人類の起源』。2025年11月15日。佐久市市民創錬センター。『シンポジウム『香坂山遺跡からさぐる日本列島 現生人類

- の起源』：口頭
- 池谷信之。「縄文時代後期の黒曜石流通と社会組織」日本考古学協会第91回総会。2025年5月25日。筑波大学。『日本旧石器学会第91回総会・研究発表要旨』：54。口頭
- 池谷信之「草創期神津島産「両面体石器群」のゆくえ」資源環境と人類2025シンポジウム『草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』。2026年1月24日～25日。明治大学グローバルフロント。『資源環境と人類2025シンポジウム 草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』：17-20。口頭
- 石川日出志「戦後80年に考える学術と人類史」公開シンポジウム「人類はどこから来て、どこへ向かうのか」。2025年9月7日。明治大学 アカデミーホール。『人類はどこから来て、どこへ向かうのか』：6-9。講演
- 遠藤英子「土器圧痕からみたイネ（*O. sativa*）の中央アジア拡散」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。『第40回日本植生史学会岡山大会講演要旨集』：41。口頭
- 大石加奈・成川詩歩・伊藤美香・佐々木由香「栄養価とポリフェノール含量からみた縄文人のドングリ類の選択性の検討」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。ポスター
- 大竹憲昭「池の平遺跡群および竹佐中原遺跡の発掘調査」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：22-23。紙上発表
- 金子悠人・西本志保子・奈良部大樹・佐々木由香・宮田将寛・小林謙一「シソ属の通年発芽実験からみた土器製作環境への展望」日本文化財科学会第42回大会。2025年7月4日。九州大学伊都キャンパス。口頭
- 国武貞克・須藤隆司・妹尾周三・藤野次史「広島県廿日市市冠遺跡8地点VI層の発掘調査成果（第1報）―後期旧石器時代を遡る可能性のある石器群の層位的検出―」日本考古学協会第91回総会。2025年5月25日。筑波大学。『日本考古学協会第91回総会 研究発表要旨』：22。口頭
- 栗島義明「石製装身具の特徴」シンポジウム 縄文時代骨角製装身具研究の現状と課題。2025年6月22日。明治大学グローバルホール。『シンポジウム『縄文時代骨角製装身具研究の現状と課題』』：26-28。パネラー
- 栗島義明「仙人窟における草創期の石鏃製作工程」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：21。紙上発表
- 栗島義明「木の実食を考える」シンポジウム 縄文農耕論と焼畑。2026年1月24日。長野県塩尻市総合文化センター中央公民館講堂。『シンポジウム『縄文農耕論と焼畑』予稿集』：62-64。口頭
- 小池咲菜・佐々木由香・小泉玲子「土壌条件別にみた炭化種実検出のための土壌選別法の比較」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。ポスター
- 小林謙一・西本志保子・奈良部大樹・小林尚子・佐々木由香・宮田将寛・米田 穰・尾崎大真・大森貴之「土器包埋植物遺体の検出と年代測定―縄紋時代の多量圧痕土器の一例」日本文化財科学会第42回大会。2025年7月4日。九州大学伊都キャンパス。口頭
- 佐々木由香「縄文時代の植物資源利用-始良市前田遺跡を中心に-」2025年度 鹿児島県考古学会秋季大会。2025年10月18日。始良公民館。口頭
- 佐々木由香「先史時代の有用植物とその成分」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：15-16。紙上発表
- 高田和高「細石刃石器群における黒曜石原産地分析について：相模原市田名塩田遺跡群B地点の事例から」石器文化研究会令和7年度総会・第299回例会。2025年6月1日。ふれあい貸し会議室浜松町 No97。口頭
- 高田和高「相模野ナイフ形石器文化終末期から尖頭器、細石刃への交代劇：段階編年論再考」鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて。2025年11月24日。横浜市歴史博物館。口頭
- 高田和高「多久安山岩原産地三年山地区における石器技術の区間構成と時系列変化」明治大学黒曜石研究セン

ター 2025 研究集会, 2025 年 12 月 6 日, 明治大学黒耀石研究センター, 『明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 19-20, 紙上発表

杉本 亘・佐々木由香・西野雅人「千葉市多部田貝塚の炭化種実からみた縄文時代後期の利用植物」第 40 回日本植生史学会岡山大会, 2025 年 11 月 29 日～11 月 30 日, 岡山理科大学, 口頭

鈴木美保「南関東の石器群編年と MIS ステージ 2 の環境変動」シンポジウム『関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』, 2025 年 9 月 25 日～28 日, 明治大学グローバルフロント, 口頭

鈴木美保「武蔵野台地の様相一下原・富士見町遺跡出土事例の考察から一」岩宿フォーラム 2025 シンポジウム, 2025 年 11 月 1 日～2 日, 交流ホール 笠懸公民館, 『岩宿フォーラム 2025 シンポジウム「関東地方北部の「砂川期」」予稿集』: 42-49, 口頭

鈴木美保「南関東の石器群編年と MIS2 の環境変動 (2) —古気候シミュレーションモデルとの対比—」明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会, 2025 年 12 月 6 日, 明治大学黒耀石研究センター, 『明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 8-9, 口頭

須藤隆司「香坂山遺跡への道: 佐久市の旧石器遺跡を掘る」シンポジウム『香坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源』, 2025 年 11 月 15 日, 佐久市市民総練センター『シンポジウム 香坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源』, 口頭

須藤隆司「千葉県角田台遺跡と駒形遺跡の男女倉システム」明治大学黒耀石研究センター 2026 研究集会, 2025 年 12 月 6 日, 明治大学黒耀石研究センター, 『明治大学黒耀石研究センター 2026 研究集会 発表要旨集』: 24-25, 紙上発表

諏訪間 順「かながわの旧石器遺跡の石材から集団の領域を考える」COLS 考古学フォーラム 講演会『後期旧石器時代の新たな遺跡構造論』, 2025 年 4 月 20 日, 明治大学, 口頭

諏訪間 順「南関東の旧石器編年の学史的検討」『シンポジウム 関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』, 2025 年 9 月 27 日, 明治大学グローバルフロント, 『シ

ンポジウム 関東・東海地方の旧石器時代研究の現在予稿集』: 7-11, 口頭

諏訪間 順「鈴木次郎・矢島国雄による相模野編年の残した意味」シンポジウム『鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて』, 2025 年 11 月 24 日, 横浜市歴史博物館, 口頭

諏訪間 順「深見諏訪山遺跡第Ⅲ文化層 B1 上部石器群の再評価」, 明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会, 2025 年 12 月 6 日, 明治大学黒耀石研究センター, 『明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 10-11, 口頭

高嶋千聡・伊藤美香・佐々木由香「ニワトコの栄養学的評価と発酵利用の可能性」第 40 回日本植生史学会岡山大会, 2025 年 11 月 29 日～11 月 30 日, 岡山理科大学, ポスター

谷畑美帆「疾令以前の日本の医療—神話と考古学—」明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会, 2025 年 12 月 6 日, 明治大学黒耀石研究センター, 『明治大学黒耀石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 13-14, 口頭

谷畑美帆・宮代栄一「千葉県内裏塚古墳群出土資料の再検討—人骨及び馬具を中心に—」日本考古学協会第 91 回総会, 2025 年 5 月 25 日, 筑波大学, 『日本考古学協会第 91 回総会』: 56, ポスター

堤 隆「遺跡が語る人類文化の軌跡—サビエンス氷期の適応戦略」公開シンポジウム「人類はどこから来て、どこへ向かうのか」, 2025 年 9 月 7 日, 明治大学 アカデミーホール, 『人類はどこから来て、どこへ向かうのか』: 40-49, 講演

堤 隆「下茂内第Ⅱ文化層尖頭器石器群の較正年代と南関東との編年的対比」シンポジウム『関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』, 2025 年 9 月 28 日, 明治大学グローバルフロント, 『シンポジウム 関東・東海地方の旧石器時代研究の現在』: 103-107, 口頭

堤 隆「考古学と火山地質学とのマッチングによる浅間山活動史・社会災害史の復元と火山防災」即戦力となる火山人材育成プログラム シンポジウム, 2025 年 11 月 5 日, 東北大学, 口頭

堤 隆「日本列島の後期旧石器時代」シンポジウム『香

坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源』。2025年11月15日。佐久市市民総錬センター。『シンポジウム 香坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源』：1-9。招待講演

堤 隆「尖頭器石器群と細石刃石器群の時間的關係：鈴木次郎の並行説再考」シンポジウム『鈴木次郎らの提唱した相模野編年と旧石器時代史の構築に向けて』。2025年11月24日。横浜市歴史博物館。口頭

堤 隆「浅間火山のテフラ層群と遺跡年代」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：5。口頭

堤 隆「黒曜石が語る旧石器時代人像」九州旧石器文化研究会。2025年12月13日。雲仙市文化会館。『九州旧石器』29：1-8。招待講演

堤 隆「神子柴系石器群の形成理解にかかわる再構築」旧石器文化談話会。2026年1月12日。同志社大学。招待講演

堤 隆「縄文文化の幕開け：草創期の多様性と広域展開」資源環境と人類2025シンポジウム『草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』。2026年1月24日～25日。明治大学グローバルフロント。『シンポジウム 草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』：14。口頭

中村由克「苦鉄質半深成岩類の石器石材利用について」地学団体研究会第79回総会。2025年8月30日～31日。上越市ミュージゼ雪小町。『地学団体研究会第79回総会(高田) 講演要旨集』：92。ポスター

中村由克「サヌカイト・安山岩石材の原産地推定—岡谷丸山遺跡、大鹿窪遺跡、六通神社南遺跡—」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：34。口頭

中村由克「岡谷丸山遺跡と大鹿窪遺跡の石器石材—広域移動する石材—」資源環境と人類2025シンポジウム『草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』。2026年1月24日～25日。明治大学グローバルフロント。『資源環境と人類2025シンポジウム 草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』：23-

26。口頭

西内 巧・佐々木由香・中野正貴・小林和貴・鈴木三男・能城修一「在来ニワトコ類3種の果実におけるメタボローム解析」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。ポスター

西本志保子・奈良部大樹・佐々木由香・宮田将寛・小林謙一「神奈川県相模原市上中丸遺跡出土のシソ属多量圧痕土器」2025年日本考古学協会第91回総会。2025年5月25日。筑波大学。口頭

能城修一・村上由美子・前田仁暉・佐々木由香・石川康紀・福山博章・筒井崇史「京都府水主神社東遺跡・下水主遺跡における縄文時代の木材資源利用」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。『第40回日本植生史学会岡山大会講演要旨集』：37。口頭

能城修一・村上由美子・前田仁暉・佐々木由香・石川康紀・福山博章・筒井崇史「京都府水主神社東遺跡・下水主遺跡における縄文時代の木材資源利用」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：12。口頭

林 忻・坂本 稔・箱崎真隆・佐野雅規・能城修一「東京都港区我善坊谷遺跡出土木材の年代および産地からみた江戸期の木材利用」第40回日本植生史学会岡山大会。2025年11月29日～11月30日。岡山理科大学。『第40回日本植生史学会岡山大会講演要旨集』：35-36。口頭

藤森英二「佐久市寺畑遺跡の黒曜石原産地推定」明治大学黒曜石研究センター2025研究集会。2025年12月6日。明治大学黒曜石研究センター。『明治大学黒曜石研究センター2025研究集会 発表要旨集』：26-27。紙上发表

藤森英二「佐久市寺畑遺跡の石器群と黒曜石原産地」資源環境と人類2025シンポジウム『草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』。2026年1月24日～25日。明治大学グローバルフロント。『資源環境と人類2025シンポジウム 草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』：27-32。口頭

藤山龍造「チェコ科学アカデミーでの学術交流を通じて」

明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会. 2025 年 12 月 6 日. 明治大学黒曜石研究センター. 『明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 18. 口頭

藤山龍造「ヤンガー・ドライアス期を考える」資源環境と人類 2025 シンポジウム 『草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』. 2026 年 1 月 24 日～25 日. 明治大学グローバルフロント. 『資源環境と人類 2025 シンポジウム 草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る』: 65-66. 基調講演

前田明日香・伊藤美香・佐々木由香「縄文時代に利用が推定される鱗茎類の栄養価分析」第 40 回日本植生史学会岡山大会. 2025 年 11 月 29 日～11 月 30 日. 岡山理科大学. ポスター

矢島國雄「砂川期研究の歩み」岩宿フォーラム 2025 シンポジウム. 2025 年 11 月 1 日～2 日. 交流ホール 笠懸公民館. 『岩宿フォーラム 2025 シンポジウム「関東地方北部の「砂川期」」予稿集』: 2-13. 基調講演

矢島國雄「日本考古学協会のアーカイブ構築」明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会. 2025 年 12 月 6 日. 明治大学黒曜石研究センター. 『明治大学黒曜石研究センター 2025 研究集会 発表要旨集』: 17. 口頭

“Fujiyama, R. “Between Subarctic and Subtropical Zones: How Did Hunter-Gatherers in the Far East Adopt Ceramic Technology During the Late Pleistocene?”. 2025 年 10 月 30 日. チェコ考古学研究所 (プラハ). 招待講演

Suzuki, M. “Discussion on the origin of the pressure flaking technique on Paleo-Honshu Island.” The 12th meeting of the Asian Paleolithic Association. 2025 年 6 月 20 ～ 24 日. Tohoku University. *Program and abstract of The 12th meeting of the Asian Paleolithic Association* : 94. ポスター

Tsutsumi, T. “An overview of the Upper Palaeolithic in the Japanese Archipelago.” The 12th meeting of the Asian Paleolithic Association. 2025 年 6 月 20 ～ 24 日. Tohoku University. *Program and abstract of The 12th meeting of the Asian Paleolithic Association* : 28. ポスター

(3) 講演会, 学習講座, フォーラム等

池谷信之「神津島産黒曜石の発見はどうして重要なのか?」第 8 回 COLS 考古学フォーラム「1 万 3 千年前海を越え佐久市にきた神津島産黒曜石! —佐久市寺畑遺跡 神津島産黒曜石発見報告会—」. 2026 年 2 月 14 日. 交流文化館浅科 (穂の香ホール). 講師

石川日出志「一弥生講座—弥生時代研究の最前線!」第 7 回 COLS 考古学フォーラム / 長野県立歴史館考古学セミナー. 2025 年 11 月 30 日. 長野県立歴史館. 講師

大竹憲昭「黒曜石に焦点をあてて紐解く旧石器・縄文時代」長野市立長野高等学校公開講座「ながのろじー」. 2025 年 5 月 8 日. 長野市立長野高等学校. 講師

大竹憲昭「信州に初めて訪れた人びとは? —日本列島最古段階の旧石器 竹佐中原遺跡—」. 第 2 回 COLS 考古学フォーラム 公開講座 および 映画「掘る女」無料上映会. 2025 年 5 月 10 日. 伊那市創造館. 講演.

大竹憲昭「竹佐中原石器文化から後期旧石器時代の成立を考える—非石刃石器群と石刃石器群—」第 3 回 COLS 考古学フォーラム「後期旧石器時代の成立と展開」. 2025 年 5 月 18 日. 明治大学. 講演

大竹憲昭「今, 信州の旧石器がおもしろい—信州の歴史はいつからはじまったか—」長野県立歴史館歴史講座. 2025 年 6 月 7 日. 長野県立歴史館. 講師

大竹憲昭「竹佐中原石器文化から後期旧石器時代の成立を考える」長野県立歴史館学芸研究会. 2025 年 10 月 1 日. 長野県立歴史館. 講師

大竹憲昭「黒曜石に触ってみよう 観察と分析」長野県立歴史館考古学体験講座. 2025 年 12 月 14 日. 長野県立歴史館. 講師

栗島義明「トチの実食とアク抜き」デーノタメ遺跡研究会. 2025 年 11 月. 北本市. 講演

栗島義明「アク抜き実験と民俗学」縄文農耕プレゼンボ検討会. 2025 年 12 月. 明治大学. 講演

栗島義明「木の実を食す」シンポジウム「デーノタメ遺跡が拓く縄文の世界Ⅳ—縄文の食文化に学ぶ—」. 2026 年 3 月 7 日. 北本市. 講演

佐々木由香「科学の視点で考古学」～土器のくぼみ (圧痕) から植物を調べる～. 2025 年 6 月 15 日. 多摩六

- 都科学館. 講師
- 佐々木由香・能城修一「弥生時代の木材からみた植物利用—小松市白江梯川遺跡を中心に」金沢大学古代文明・文化資源学フォーラム 2025. 2025年7月26日. 石川県文教会館. 講演
- 佐々木由香「縄文の編み組みもの」令和7年度新潟県埋蔵文化財センター講演会. 2025年8月31日. 新潟県埋蔵文化財センター. 講演
- 佐々木由香「放談 植物考古学者と週末縄文人～植物からみる縄文時代～」秋季講演会「種も実もある川原田遺跡 ～植物考古学の視点から～」. 2025年11月16日. 浅間縄文ミュージアム. 講演
- 佐々木由香「土器圧痕からみた大崎平野の縄文弥生移行期」令和7年度大崎市文化財講演会『縄文から弥生へ—大崎平野, 農耕のはじまり—』. 2025年11月22日. 大崎市図書館. 講演
- 島田和高「黒曜石原産地分析を基礎とした石器研究の展望」明治大学博物館友の会縄文・旧石器分科会. 2025年9月25日. 明治大学博物館. 講師
- 諏訪 順「かながわの旧石器遺跡の石材から集団の領域を考える」第1回 COLS 考古学フォーラム 講演会『後期旧石器時代の新たな遺跡構造論』. 2025年4月20日. 明治大学. 講演
- 諏訪 順「相模の旧石器研究の展望」シンポジウム『下土棚諏訪ノ棚遺跡と氷期の藤沢』. 2026年2月15日. 藤沢市Fプレイス ホール. 講師.
- 諏訪 順・堤 隆「遺跡発掘に魅せられた人々」第6回 COLS 考古学フォーラム 映画「掘る女」上映会 & トークセッション/令和7年度大和市文化財愛護講座. 2025年11月1日. 大和市渋谷学習センター. 講師
- 谷畑美帆「骨から過去を語る—日本人は健康だったのか?—」朝日カルチャーセンター. 2026年1月25日. 朝日カルチャーセンター横浜. 講師
- 谷畑美帆. 「日本人の健康状態—過去と現代を比較しながら—」千葉市科学館. 2026年3月14日. 大人のための科学講座. 講師
- 谷畑美帆. 「戦争とは何か? 戦いの痕跡を探る」朝日カルチャーセンター. 2026年3月15日. 朝日カルチャーセンター横浜. 講師
- センター横浜. 講師
- 堤 隆「最古の信州ブランド：黒曜石資源の開発をめぐる謎」第2回 COLS 考古学フォーラム 公開講座 および 映画「掘る女」無料上映会. 2025年5月10日. 明治大学. 講師
- 堤 隆「地域で考古学をともに学ぶ」. 長野県立歴史館考古学セミナー. 2025年6月1日. 長野県立歴史館. 講師
- 堤 隆「再現 香坂山遺跡 最古の石刃づくり」第4回 COLS 考古学フォーラム「列島最古の石刃遺跡香坂山—達人の技でよみがえる香坂山の石刃作り」. 2025年6月29日. 浅間会館. 講師
- 堤 隆「噴火紙芝居 1783 天明三年の浅間山大噴火」しんまい火山の学校. 2025年10月5日. 信毎メディアガーデン. 講師
- 堤 隆「888年千曲川大洪水と1108・1783年浅間山大噴火—災害考古学からみた佐久地方の歴史的受難」白田文化協会 文化講演会. 2025年11月11日. 白田公民館. 講師
- 堤 隆「大昔のスーパーナイフ黒曜石できってみよう」浅間山こども大学. 2025年11月29日. 小諸市民会館. 講師
- 堤 隆「岩宿の発見から80年 旧石器研究の到達点と未来への針路」みどり市 市民講座. 2025年12月7日. 岩宿博物館. 講師
- 堤 隆「最古の“東京ブランド” 神津島産黒曜石」佐久市寺川遺跡の神津島産黒曜石分析報告会. 2026年1月18日. 神津島生きがいセンター. 講師
- 堤 隆「神子柴遺跡の石器群と縄文時代草創期」福島市じょーもびあ宮畑 文化フォーラム. 2026年2月7日. 福島市じょーもびあ宮畑. 講師
- 堤 隆「神子柴と久保上ノ平：南箕輪村の遺跡から見える縄文の謎」南箕輪村文化講演会. 2026年2月15日. 南箕輪村文化会館. 講師
- 堤 隆・石川日出志・馬場伸一郎「鼎談 信州の弥生時代」第7回 COLS 考古学フォーラム/長野県立歴史館考古学セミナー. 2025年11月30日. 長野県立歴史館. 講師
- 中村由克「第5次「骨製基部加工剥片」再検討」野尻湖

発掘調査団運営委委員会. 2025年12月6日. 野尻湖
ナウマンゾウ博物館. 講師

能城修一「縄文時代後期の寒冷化と植生の変化」. 資源
利用クラスターシンポジウム「大型環状貝塚の形成背
景を探る」. 2025年11月2日. 明治大学グローバルホー
ル. 講演

能城修一「木材の樹種からみた縄文時代の森林資源利
用」. 東村山考古学講演会「分析科学と考古学」. 2026
年3月1日. 東村山ふるさと歴史館. 講演

藤森英二「旧石器時代とは」第4回 COLS 考古学フォー
ラム「列島最古の石刃遺跡香坂山—達人の技でよみが
える香坂山の石刃作り」. 2025年6月29日. 佐久市
岩村田浅間会館. 講師

藤森英二「『佐久の二大石棒』に学ぶ」佐久教育振興会.
2025年10月4日. 佐久穂町茂来館. 講師

藤森英二「千曲川縄文の旅」千曲市歴史講座. 2025年
10月11日. 千曲市さらしなの里歴史資料館. 講演

藤森英二「栃原岩陰遺跡を学ぶ」南北相木人権擁護委員
会. 2025年10月27日. 北相木村役場・北相木村
考古博物館. 講演

藤森英二「北相木村栃原岩陰遺跡について」南佐久郡シ
ニアクラブ連合会交流会. 2025年11月7日. 北相木
村シャクナゲホール. 講演

藤森英二「考古学教室・土器の模様を再現する」北相木
村生涯学習教室. 2025年11月19日. 北相木村公民館.
講師

藤森英二「北沢の大石棒保存の取り組み（2世誕生）」
北海道・北東北の縄文遺跡群秋田フォーラム 2025 環
状列石×古墳壁画. 2025年11月30日. 秋田市文化
創造館. 講演・パネリスト

藤森英二「土器作り教室（野焼き）」軽井沢追分郷土資
料館子ども歴史体験講座. 2025年12月6日. 軽井沢
追分資料館. 講師

藤森英二「栃原岩陰遺跡 岩陰利用形態の変化」長和町
ミュージアム友の会学習会. 2025年12月13日. 長
和町黒耀石体験ミュージアム. 講師

藤森英二「信州の縄文との出会い ～出版までの道のり
と描きたかった縄文世界～」東信高等学校図書館協議
会合同研究会. 2026年1月22日. 佐久合同庁舎. 講

演

藤森英二. 「土偶とは何か」国宝「土偶」（縄文のビーナ
ス）指定30周年記念シンポジウム「尖石縄文文化賞
受賞者と語る「土偶とは何か」」. 2026年1月25日.
茅野市民館コンサートホール. パネリスト

藤森英二「なぜ神津島産黒耀石とわかったか」第8回
COLS 考古学フォーラム「1万3千年前 海を越え佐久
市にきた神津島産黒耀石！—佐久市寺畑遺跡 神津島
産黒耀石発見報告会—」. 2026年2月14日. 交流文
化館浅科：穂の香ホール. 講師

藤森英二「意外と知らない信州の縄文世界」明治大学校
友会長野県支部役員懇親会. 2026年3月20日. 信毎
メディアガーデン. 講演

藤森英二・堤 隆. 「佐久穂町の遺跡を掘る！」第5回
COLS 考古学フォーラム 映画「掘る女 縄文人の落
とし物」夏休み無料上映会. 2025年8月9日. 佐久
穂町茂来館. 対談

Sasaki. Y. “Investigation of Pottery Impressions by the
Replica Method” 複製法工作坊. 2025年9月16日.
蘭州大学. 講師

VI. 研究出張

2025年4月12日～14日：堤 隆「琵琶湖博物館・奈
良文化財研究所（災害遺跡関連調査）」

2025年4月19日：堤 隆「大和市つる舞いの里資料館（深
見諏訪山旧石器資料調査）」

2025年4月20日：遠藤英子「カザフスタンのクズロル
ダ大学、マルグラン考古学研究所（所蔵土器の圧痕調
査、及びセミナー）」

2025年4月21日：大竹憲昭「飯田市竹佐中原遺跡（試
掘地点確認調査）」

2025年4月22日：能城修一「國學院大學博物館（古墳
出土資料調査）」

2025年4月24日：中村由克「長和町黒耀石研究センター
（黒耀石晶子形態調査）」

2025年5月7日：中村由克「野尻湖ナウマンゾウ博物
館（黒耀石晶子形態調査）」

2025年5月9日：大竹憲昭「飯田市竹佐中原遺跡（試

- 掘地点地権者交渉他)」
- 2025年5月9日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（調査打合せ）」
- 2025年5月9日：谷畑美帆「富津市役所文化課（資料返却）」
- 2025年5月19日：諏訪間順「玉川文化財研究所（下土棚諏訪ノ棚遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年5月19日：堤 隆「大和市文化財保管施設（深見諏訪山遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年5月19日～21日：中村由克「愛知学院大学（日向洞窟縄文草創期資料調査）」
- 2025年5月26日～27日：遠藤英子「神奈川県小田原市（中里遺跡の圧痕調査）」
- 2025年5月26日：栗島義明「群馬県東吾妻町（仙人窟調査打合せ）」
- 2025年5月26日：栗島義明「静岡県埋蔵文化財センター（装身具調査）」
- 2025年5月26日：諏訪間順「栃木県埋蔵文化財センター（黒耀石製石器資料調査）」
- 2025年5月26日～29日：中村由克「庄原市帝釈峡展示施設・広島大学（縄文草創期・旧石器資料調査）」
- 2025年5月30日：栗島義明「福島県会津坂下町（装身具調査）」
- 2025年6月5日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（調査打合せ）」
- 2025年6月11日：谷畑美帆「富津市役所文化課（資料返却）」
- 2025年6月11日～12日：堤 隆「大和市文化財保管施設（深見諏訪山遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年6月17日：能城修一・佐々木由香「かながわ考古学財団（中依知遺跡出土資料調査）」
- 2025年6月17日～18日：能城修一・佐々木由香「福井県水月湖（ポーリング調査見学）」
- 2025年6月18日：栗島義明「群馬県安中市（古代牧調査）」
- 2025年6月20日～24日：大竹憲昭「東北大学他（東アジア旧石器学会・日本旧石器学会）」
- 2025年6月21日～23日：島田和高「東北大学（アジア旧石器協会参加）」
- 2025年6月29日～7月8日：遠藤英子「カザフスタンのカザフトルコ大学（トリキスタン）、トリキスタン歴史博物館（シムケント）（圧痕調査）」
- 2025年7月3日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（調査打合せ）」
- 2025年7月7日～9日：中村由克「千葉県教育庁大多喜分室（六通神社南遺跡縄文草創期資料調査）」
- 2025年7月8日～25日：島田和高「相模原市博物館（田名塩田B地点遺物 XRF 分析計測）」
- 2025年7月10日～25日：堤 隆「長崎県対馬市 鬼が崎遺跡発掘調査（縄文早期）」
- 2025年7月13日：谷畑美帆「富津市役所文化課（資料返却）」
- 2025年7月15日：中村由克「長和町 黒耀石研究センター（サヌカイト石材調査）」
- 2025年7月16日：能城修一・佐々木由香「千葉県考古学財団（高谷川低地遺跡出土資料調査）」
- 2025年7月22日～25日：中村由克「山形県最上川流域フィールド（石材原産地調査）」
- 2025年7月26日：堤 隆「山口県 土井ヶ浜遺跡資料調査（弥生後期）」
- 2025年7月28日～29日：中村由克「日光市周辺フィールド（石材原産地調査）」
- 2025年7月28日：能城修一・佐々木由香「玉川文化財研究所（中里遺跡出土資料調査）」
- 2025年7月31日：栗島義明「埼玉県飯能市・越生町（堅果類採集）」
- 2025年8月1日～3日：能城修一・佐々木由香「北海道東部（出土繊維資料調査）」
- 2026年8月6日：栗島義明「新潟県長岡市（炭化種子調査）」
- 2025年8月7日～8日：遠藤英子「奈良県田原本町（唐古・鍵遺跡の圧痕調査）」
- 2025年8月7日：中村由克「長和町 黒耀石研究センター（サヌカイト石材調査）」
- 2025年8月11日～16日：堤 隆・藤森英二「佐久市円生坊遺跡発掘調査（弥生後期）」
- 2025年8月12日～24日：島田和高「多久市発掘調査事務所（三年山二次調査遺物調査）」
- 2025年8月16日：藤森英二「諏訪市博物館（諏訪湖底

- 曾根遺跡の爪形文土器の調査)」
- 2025年8月18日～14日：堤 隆・藤森英二「南相木村 大師遺跡発掘調査（縄文前期）」
- 2025年8月22日～24日：能城修一・佐々木由香「是川縄文館・御所野博物館（出土藍胎漆器調査・復元資材調整）」
- 2025年8月23日：遠藤英子「神奈川県小田原市（中里遺跡の圧痕調査）」
- 2025年8月24・25日：栗島義明「宮城県塩竈市、山形県米沢市（塩竈神社・塩泉調査）」
- 2025年8月28日～29日：谷畑美帆「長野県上田市立博物館・長野県歴史館・長野県千曲市森將軍塚古墳館（研究対象資料の確認）」
- 2025年8月28日～9月7日：能城修一「カンボジア・ベトナム（木彫像調査）」
- 2025年9月5日：藤森英二「岩宿博物館（みどり市内出土爪形文土器の調査）」
- 2025年9月8日～11日：遠藤英子「長野県高森町（所蔵土器の圧痕調査）」
- 2025年9月8日：諏訪間順「立正大学博物館（箱根町朝日遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年9月12日：栗島義明「埼玉県嵐山町（堅果類採集）」
- 2025年9月13日～14日：池谷信之「山梨県石和町帝京大学文化財研究所（研究会「水晶利用の歴史的展開を探る」参加と水晶原産地踏査）」
- 2025年9月15日～20日：島田和高「多久市発掘調査事務所（三年山二次調査遺物調査）」
- 2025年9月16日：栗島義明「埼玉県行田市（堅果類採集）」
- 2025年9月16日：栗島義明「埼玉県寄居町（堅果類採集）」
- 2025年9月16日～18日：中村由克「富士宮市埋蔵文化財センター（大鹿窪遺跡縄文草創期資料調査）」
- 2025年9月18日：諏訪間順「大和市文化財保管施設（深見諏訪山遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年9月18日：堤 隆「千葉県大網白里市（大網山田台旧石器資料調査）」
- 2025年9月19日：谷畑美帆「愛知県豊橋市文化財センター（資料返却）」
- 2025年9月25日：島田和高「明治大学博物館（博物館友の会招待講演）」
- 2025年9月25日～26日：中村由克「喜多方市周辺フィールド（石材原産地調査）」
- 2025年9月26日：栗島義明「群馬県月夜野町（堅果類採集）」
- 2025年9月27日～28日：島田和高「明治大学駿河台キャンパス（石器文化研究会シンポジウム参加）」
- 2025年10月2日：栗島義明「長野県須坂市（塩泉調査）」
- 2025年10月6日：能城修一「浜松市（木彫像調査）」
- 2025年10月7日：遠藤英子「埼玉県熊谷市（池上遺跡の圧痕調査）」
- 2025年10月10日～14日：大竹憲昭「海峡メッセ下関・土井ヶ浜ミュージアム（日本人類学会大会）」
- 2025年10月10日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（資料整理）」
- 2025年10月13日～17日：中村由克「千葉県教育庁大多喜分室（六通神社南遺跡縄文草創期資料調査）」
- 2025年10月13日：能城修一・佐々木由香「埼玉県（現生植物調査）」
- 2025年10月14日～16日：須藤隆司「千葉県教育庁文化財課森宮分室（角田台・駒形遺跡資料調査・蛍光X線分析資料借用）」
- 2025年10月18日～20日：大竹憲昭「長野県飯田市竹佐中原遺跡（旧石器試掘調査）」
- 2025年10月18日～21日：諏訪間順「長野県飯田市竹佐中原遺跡（旧石器試掘調査）」
- 2025年10月18日～22日：堤 隆「長野県飯田市竹佐中原遺跡（旧石器試掘調査）」
- 2025年10月25日～28日：大竹憲昭「佐久市市民創縁センター（シンポジウム 香坂山遺跡からさぐる日本列島現生人類の起源）」
- 2025年10月28日～29日：中村由克「新潟県立歴史博物館（小瀬ヶ沢洞窟縄文草創期資料調査）」
- 2025年10月29日：遠藤英子「埼玉県埋蔵文化財収蔵施設（池上遺跡の圧痕調査）」
- 2025年10月31日：遠藤英子「埼玉県和光市（午王山遺跡の圧痕調査）」
- 2025年11月1日～2日：島田和高「みどり市笠懸公民館（岩宿フォーラム参加）」
- 2025年11月4日：遠藤英子「埼玉県熊谷市（池上遺跡

- の圧痕調査)」
- 2025年11月4日：須藤隆司「千葉県教育庁文化財課森宮分室（角田台・駒形遺跡蛍光X線分析資料返却）」
- 2025年11月6日：藤森英二「南アルプス市南ふるさと文化伝承館・釈迦堂遺跡博物館（縄文中期土器の調査）」
- 2025年11月7日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（アク抜き実験）」
- 2025年11月10日：堤 隆「佐久市瀬戸軽石流年代測定試料採取（火山災害）」
- 2025年11月11日～14日：遠藤英子「奈良県田原本町（唐古・鍵遺跡の圧痕調査）」
- 2025年11月15日～16日：大竹憲昭「新潟市民プラザホール・新潟医療福祉大学・佐渡島（日本考古学協会新潟大会）」
- 2025年11月16日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（アク抜き実験）」
- 2025年11月18日：能城修一・佐々木由香「玉川文化財研究所（中里遺跡出土資料調査）」
- 2025年11月21日：栗島義明「埼玉県北本市（アク抜き実験）」
- 2025年11月24日：栗島義明「埼玉県北本市（アク抜き実験）」
- 2025年11月24日：島田和高「横浜市歴史博物館（鈴木次郎追悼シンポジウム参加）」
- 2025年11月25日～26日：島田和高「多久市発掘調査事務所（東ノ原1630遺跡遺物調査）」
- 2025年11月25日：能城修一・佐々木由香「玉川文化財研究所（中里遺跡出土資料調査）」
- 2025年11月27日～28日：島田和高「伊万里市腰岳（黒曜石基準資料サンプリング）」
- 2025年11月29日・30日：須藤隆司「兵庫県立考古学博物館（第42回中・四国旧石器文化談話会参加）」
- 2025年11月29日～30日：島田和高「兵庫県立考古学博物館（第42回中・四国旧石器文化談話会参加）」
- 2025年12月2日：能城修一「兵庫県立考古学博物館（第42回中・四国旧石器文化談話会参加）」
- 2025年12月4日：島田和高「明治大学博物館（三年山遺物調査・中村由克氏）」
- 2025年12月4日～6日：中村由克「明治大学博物館（多
久三年山遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年12月5日：能城修一「一乗谷安倉氏遺跡博物館（出土ウルシ資料調査）」
- 2025年12月9日～11日：栗島義明「鹿児島県埋蔵文化財センターほか（資料調査）」
- 2025年12月13日～14日：島田和高「雲仙市国見町文化会館（九州旧石器文化研究会参加）」
- 2025年12月13日～14日：谷畑美帆「長野県諏訪市博物館・千曲市森將軍塚古墳館（研究対象資料の確認）」
- 2025年12月14日～15日：遠藤英子「東義大学校博物館（釜山）（晋州大坪里玉房地区出土土器の圧痕調査）」
- 2025年12月15日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター分室（資料整理）」
- 2025年12月15日～20日：島田和高「多久市発掘調査事務所（岡遺跡遺物調査）」
- 2025年12月15日～16日：堤 隆「佐賀県伊万里市腰岳黒曜石原産地（原産地調査）」
- 2025年12月15日：能城修一「埼玉県川口市（ポーリング調査）」
- 2025年12月16日：栗島義明「東京農大（堅果類成分分析）」
- 2025年12月16日：能城修一・佐々木由香「玉川文化財研究所（中里遺跡出土資料調査）」
- 2025年12月18日～19日：中村由克「長和町 黒耀石研究センター（男女倉遺跡旧石器資料調査）」
- 2025年12月25日：遠藤英子「埼玉県熊谷市（池上遺跡の圧痕調査）」
- 2025年1月7日：中村由克「北相木村考古博物館（栃原岩陰縄文資料調査）」
- 2026年1月13日：堤 隆「京都府埋蔵文化財センター（稚児野遺跡旧石器資料調査）」
- 2026年1月19日：能城修一「東京藝術大学（木彫像調査）」
- 2026年1月24日～25日：島田和高「明治大学駿河台キャンパス（資源環境と人類シンポジウム参加）」
- 2026年1月24日～25日：能城修一・佐々木由香「佐賀県佐賀市（学変推進会議）」
- 2026年1月27日～28日：中村由克「箱根町周辺フィールド（石材原産地調査）」
- 2026年1月29日～2月3日：堤 隆・諏訪問順「台湾（中

華民国) (先史遺跡調査八仙洞旧石器遺跡)」
2026年2月2日～4日：遠藤英子「長野県飯田市(五郎田遺跡の圧痕調査)」
2026年2月9日：中村由克「長野県埋蔵文化財センター(南大原遺跡弥生資料資料調査)」
2026年2月11日：堤 隆「千葉県房総風土記の丘(木刈峠旧石器資料調査)」
2026年2月14日～19日：能城修一・佐々木由香「ラオス(編組製品調査)」
2026年2月20日～22日：能城修一・佐々木由香「是

川縄文館・御所野博物館(出土藍胎漆器調査・復元資料調整)」
2026年2月21日～24日：池谷信之「札幌市周辺(続縄文・擦文期出土資料調査)」
2026年2月21日～3月13日：遠藤英子「ウズベキスタン, ダルベルジン, サマルカンド(圧痕調査)(予定)」
2026年3月3日～4日：能城修一・佐々木由香「富山県高岡市(出土資料調査)」
2025年3月20日～22日：能城修一・佐々木由香「明治大学生田校舎(藍胎漆器研究会)」